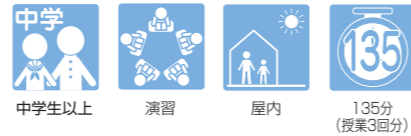


9 地震のことを考え、話し合ってみよう ― 全体の流れ

グループごとに地域の地図を広げて、地域の危険なところ（燃えやすい木造建物が集まっているところ、倒れると危ない自動販売機やブロック塀など）や、災害時に役立つところ（避難所、消防署など）を書き込みながら、災害時にどう対処すべきかをみんなで話し合う災害図上訓練 DIG（ディグ）について、全体の流れを解説します。



災害図上訓練 DIG の全体の流れを理解します。



時間軸

実施内容

授業1回目★45分[1][2][3]、2回目★45分[4][5]、3回目★45分[6][7]
対象人数★5～40人(1グループ5～10人)

事前にグループ分けをし、テーブルを囲んで席についてもらいます。道具類は事前に準備しておきます。全体の流れは、以下のとおりです。

1 地震のことを考え、話し合ってみよう①

― DIGってなあに？ (10分)

DIGとは何か、使用する道具類などを説明し、演習の準備を行います。



DIGで使う準備品

2 地震のことを考え、話し合ってみよう②

― 災害のイメージを持ちましょう (15分)

住んでいるまちで起こりうる被害を考えます。考えるときは、参加者に災害の写真や映像を見せ、災害が起こるとまちがどのようになるかのイメージを持ってもらいます。



映像で地震の被害をイメージする

3 地震のことを考え、話し合ってみよう③

― 自然やまちのつくりを地図に書き込みましょう (20分)

グループ内で話し合いながら、自然やまちのつくりについて、地図に書き込んでいきます。



自然やまちのつくりを地図に書き込む

4 地震のことを考え、話し合ってみよう④

― 地域の危険なところや災害のときに役立つところを地図に書き込みましょう (25分)

グループ内で話し合いをしながら、地域のなかで災害のときに役立つ人・モノ・場所等について、地図に書き込んでいきます。また、地域のどこが弱いのか、逆に強みはどこかなどを話し合います。



地域の強み・弱みを地図に書き込む

5 地震のことを考え、話し合ってみよう⑤

― どのような被害が起こるかを考えましょう (20分)

2～4をもとに、地域ではどんな被害があるのかを予想してふせん（メモ）に書き出し、地図に貼り付けます。



被害を予想してふせんに書く

6 地震のことを考え、話し合ってみよう⑥

― 自分たちができることを考えてみましょう (30分)

まず被災者が体験したことを聞かせます（ただし、地域の実情を踏まえて、必要でないと思われるときは省略しても構いません）。その後、5で考えた被害の状況もふまえて、自分たちができることにはどんなものがあるかを考えます。



模造紙にまとめる

実施内容

時間軸

7 地震のことを考え、話し合ってみよう⑦

― みんなで発表しましょう (15分)

1～6で今までに考えたことをグループごとに発表し合っ、みんなの考えを知ります。また、講師役から説明します。



グループごとに発表

指導ポイント

本項は、DIGの大まかな流れを示したものです。詳しい解説と進め方は、次ページからの「地震のことを考え、話し合ってみよう①～⑦」を参考にしてください。

自主防災組織の関わり方

各グループにはりついて、講師の指導を手伝う役をお願いすることが考えられます。

準備するもの(目安)

準備品	数	備考
<input type="checkbox"/> 地図 (1/2500～5000)	グループに1つ	役所・役場にて住宅地図を借りてコピー
<input type="checkbox"/> 透明シート	グループに1つ	ホームセンター等で購入
<input type="checkbox"/> セロハンテープ	グループに1つ	
<input type="checkbox"/> 油性ペン (8色程度)	グループに1つ	
<input type="checkbox"/> ベンジン	グループに1つ	ホームセンター等で購入
<input type="checkbox"/> ティッシュペーパー	グループに1つ	
<input type="checkbox"/> ふせん (メモ、大きいものと小さいもの2種類)	グループに1つ	
<input type="checkbox"/> 丸形のカラーシール (8種類程度)	グループに1つ	
<input type="checkbox"/> 模造紙	グループに1つ	

その他：透明シートは、上記のほかに余部を数部用意しておきましょう。

家庭への持ち帰り

DIGで学んだ地域の課題や災害時の活動について家庭で話してもらいます。

ひと工夫

地震に限らず、いろいろな災害をテーマとすることもできます。本教材では、地震以外に、風水害も掲載していますので、是非やってみましょう。

注意事項

DIGは、みんなで楽しくやるのが大事です。各グループが和やかに実施できるような工夫（最初に固くならないように、自己紹介の際に好きな食べ物を聞いたりするなど）が必要です。油性ペンを使用する場合は、換気に気をつけてください。

補足

災害図上訓練 DIG（ディグ）は、住民やボランティアを含んだ地域防災のあり方を探っていた三重県消防防災課（当時）の平野昌氏と、防衛研究所で災害救援を研究していた小村隆史氏（現富士常葉大准教授）の二人が中心となり、自衛隊の指揮所演習で使う地図と透明シートの方式を活用してあみ出したものです。